

# 淑女検定

☑ チャレンジテーマ

## 折り紙

大切な物を包むこと、が始まりの日本の伝統文化「折り紙」。礼法的な世界から遊びとして広がり、ORIGAMIは今や世界共通語になっている。折り紙の匂い、できた時の喜び。さあ、あの頃にタイムスリップ。

問題 1 折り鶴をきれいに仕上げるための工夫とは？

- A. 息を吹き込む
- B. 少し隙間を空ける
- C. 少し重ねる
- D. セロハンテープで止める



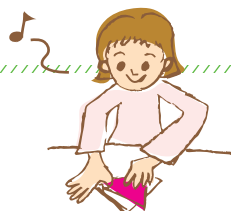
問題 2 遊戯用折り紙の本が、一番最初に出版されたのはいつ？

- A. 江戸時代
- B. 明治
- C. 大正
- D. 昭和



問題 3 やっこさんや鶴などの折り紙遊びは、いくつぐらいからが適している？

- A. 2~3歳
- B. 5~6歳
- C. 15~16歳



SBS学苑  
バルシェ校



今月の先生

【折り紙】講師  
伊藤リンダアン

月に一度、基本を学びながら伝統的作品をはじめ、四季折々に生活を飾る作品を指導

SBS学苑  
バルシェ校  
INFORMATION

3/30(土) 14:30~16:30

iPS細胞のイロハと未来

講師/藤田みさお(京都大学iPS細胞研究所博士)  
受講料/一般3,024円 ※高・大学生割引有

ノーベル賞受賞の山中伸弥教授からiPS細胞を医療に応用する論理的研究を託された藤田みさおさんが、分かりやすく解説。

【お問い合わせ・お申し込み】  
Tel.054-253-1221

### 正解 & 解説

問題 1 → 正解 B

鶴の折り方は誰もが知っているが、意外と難易度は高い。羽の辺が重なってきれいに仕上がらない、という人もいるのでは。最初の基本形は角や辺をびったり合わせることが重要だが、だんだん厚みが増してくると、あえて少し隙間を空けて折る。そうすると羽も美しく仕上がる。顔部分はくちばしをイメージして長めに折ると見栄えが良い。息を吹き込んでも膨らまないで、最後は引っ張るだけでOK。

問題 2 → 正解 A

49種類の連鶴の折り方を図入りで解説した本「秘伝千羽鶴折形」が、江戸時代に出版されている。その頃から折り紙文化が花開き、世の中に浸透していった。今では世界中に折り紙の本があるが、ここで注意すべきは著作権があるということ。伝承のものでも本をコピーして教えるのはNG、口伝はOK。折り紙の世界も作家の権利が守られている。最近ではコンピューターで展開図を描く理数系男子の作家も増えている。

問題 3 → 正解 B

小さい子の指先は柔らかく汗で湿っているので、きれいに折るのは難しい。個人差はあるものの、折り図が分かる年長児ごろからが最適と伊藤先生は考える。ただ折り紙を渡すだけではなかなか作れないので、まずは大人が折って興味を持ってもらうことが大事。伊藤先生は電車で泣く子がいると、その場で折って渡す。「そうすると泣き止んでくれるんです。折り紙はコミュニケーションの道具にもなりますよ」